

事後評価報告書(日フィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「ダイヤモンドライクカーボン薄膜を利用した環境調和型機能性表面」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:慶應義塾大学 大学院理工学研究科 教授 鈴木 哲也

2-2. フィンランド側研究代表者:フィンランド国立技術研究センター 産業システム部門
教授 Kenneth Holmberg

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側代表者の持つ DLC 薄膜技術を、フィンランド側に提供し、実用化の技術課題の解決を図ることを目指したものである。両国の研究技術者の頻繁な交流によって、相互の理解が深まった。本プロジェクト実施期間内に画期的な成果を得ることはできなかったが、今後の展開が望まれる。

フィンランド側の企業の関係者の来日が1回だけにとどまっているが、企業がより積極的に関与できる仕組みが望まれる。

(2)交流成果の評価について

両国間で頻繁な交流がなされた結果、両国間の本課題に関する理解は深まっている。このまま終了では、交流の枠を超えない。プロジェクト終了後も、実用化にむけての両国の連携交流(企業も含めて)を存続することが望まれる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本プロジェクトは、日本側代表者の推進しているダイヤモンドライクカーボンの表面処理応用を、フィンランドの持つ材料実用化の高度な知見を生かし、実用化への道筋を創りあげようとするものである。そのため、両国間の頻繁な交流により、両国間の理解は深まったが、それ以上の画期的な成果は、プロジェクト終了以降に期待される結果となった。

頻繁な交流がなされ、DLCに関し多くの議論が交わされたが、実用化にはまだ日時が必要であり、フィンランドで実施した評価内容の実質的なフィードバックが今後、確実に実施されることが肝要に思える。